

『思い直される神』 (要旨)

聖書箇所：ヨナ書 3 章 1 節～10 節

神様の命令を無視した預言者ヨナは、どん底である「よみの腹」まで下りました。しかし彼はそこで神様を思い出して祈りました。神様はそんなヨナを「よみの腹」から救い、再び陸地に立たせて下さいました。

【1】再びヨナに

神様は「再び」ヨナに語られました。

「立ってあの大きな都ニネベに行き、わたしがあなたに伝える宣言をせよ。」(3:2)

この「再び」とは、1 章 2 節の命令を「再び」ヨナに託されたということです。今回ヨナは神様のことば通りにニネベに行き、「あと四十日すると、ニネベは滅びる」(3:4)と宣言しました。

前回と異なりヨナが神様のことばに従ったのはなぜでしょうか。伝える内容に変化があったわけではありません。彼の神様との向き合い方に変化が起きたからです。彼はどん底で神様を思い出して祈る者とされたのです(参照: 2 章)。そうした彼を神様は再び陸地に立たせます。彼は神様から再チャレンジの機会が与えられニネベに向かいました。

ところで、神様はなぜ「主の御顔を避けた」ヨナに再起の機会を与えたのでしょうか。そもそも神様が預言者に円滑な宣言の伝達のみを期待しているのであれば、ニネベに対する敵愾心を隠すことのないヨナが適任であったとは思えません(参照: 4:1-3)。ヨナ書にはニネベの住民の悔い改めが記されています。同時にヨナ自身の内に隠された神様に対する怒りと拒絶が、ニネベを通して可視化されています。神様はそうしたヨナを取り扱うことを切に望まれたのです(参考: I コリント 1:17-31)。

【2】ニネベの悔い改め

ヨナは「あと四十日すると、ニネベは滅びる」(3:4)と叫びました。それに対するニネベの住民の反応は、ヨナにとって想定外でした。彼が三日の道のりのうち一日分歩いた時点で、人々が次々と神様を信じ悔い改めたからです。住民から大臣そして王様までです。王様が悔い改めたことで、悔い改めの布告がニネベ全体に行き渡りました。身分の高い者から低い者まで皆が荒

布を着たのです。彼らはヨナを通して語られた滅びの宣告を聞き、このままでは自分たちは神様に滅ぼされると深刻に受け止めました。ヨナ目から見て、神様から遠く離れた存在であった船長や水夫たち(1:6,14)、そしてニネベの人々が、神様のことばを受け入れたのです。彼らの神様に対する向き合い方は共通していました。それは、自分たちは神様に救われて当然である、と考えなかったことです。彼らは「もしかすると、神が思い直してあわれみ、その燃える怒りを収められ、私たちは滅びないですむかもしれない」(3:9)と、ただ神様の憐れみにすがりついたのです。

【3】思い直される神

こうしたニネベの悔い改めをご覧になった神様は、「思い直した」のです。神様がニネベを滅ぼすことに主眼を置いているのであれば、誰も遣わさず、四十日後に粛々と滅ぼされたことでしょう。神様がヨナを通して「ニネベは滅びる」と宣言されたのは、ニネベの人々が悔い改めることを望んでおられたからです。そしてニネベに対する裁きをできれば思い直したい、と願っておられたからです(参照: エレミヤ 18:7,8)。

【4】さいごに

▷神様はヨナを一人の人格として取り扱って下さいました(参照: イザヤ 43:4)。

▷ヨナが「主のことばのとおり、立ってニネベに行った」(3:3)のは、語る内容や相手が変わったからではありません。ヨナ自身がどん底で神様に取り扱われ、その後の姿勢が変わったからです。

▷ニネベの住民が悔い改めたのは、ヨナによって伝えられた宣言を、「神様のことば」として受け入れたからです。

